



「私の作品は、生きる喜びよりも、辛さ苦しさから生み出されることが多いようです。ですから、生活の中で見たり、読んだりして得られた刺激を、じっくりと発酵させて、存在感のある作品をめざしています。（書いている言葉は「万寿」）

ひと
他人に分からなくてもいい
自分自身を見つめたいから
これからも書き続ける



ごじゅう
牛窪 悟十さん
(書家)

HITO

しんとしたアトリエで身の引き締まるような墨の香りとともに出迎えてくださったのは牛窪悟十さん。水野にお住まいの書家です。「碑学派」の中心と言われている謙慎書道会の常任理事で、大東文化大学に日本で初めて設置された書道学科の講師なども務めています。書家としての作品制作だけでなく、今昔文字鏡というコンピュータソフト用の篆書約1万文字を書いたり、字典制作などにも関わり、幅広く活躍されています。中でも、昭和62年に出版された標準篆刻篆書字典『は、基本的な字形が統一されて書かれていて使いやすい』と需要が多く、15年経った現在も版を重ねています。

現在、牛窪さんが書き続けているのは、主に「篆書」です。篆書とは、秦の始皇帝の時代に完成された最古の書体で、現在でも印鑑などに使用され、石碑の碑文などとして今も残っています。このころは、文字を情報の伝達手段としてだけではなく、見た目をも重んじ、書法としていかに良いものを書くか、という芸術的な視点が芽生えた時代でもあります。現存する当時の石碑は、貴重な研究の資料なのです。

なぜ篆書を選んだのか、という問いに、きつかけは、

「私の作品は、生きる喜びよりも、辛さ苦しさから生み出されることが多いようです。ですから、生活の中で見たり、読んだりして得られた刺激を、じっくりと発酵させて、存在感のある作品をめざしています。（書いている言葉は「万寿」）」

牛窪さんと書との本格的な出会いは、高校入学当時でした。部活動が必修で、小学生のころに書道塾に通っていたこと、スポーツにはそれほど興味が強かったことから、書道部を選んだ牛窪さん。そこではただ上手な文字を書くだけではなく、自分を表現することを覚え、芸術としての書の歴史も知り、興味が深まります。そして大学でも書を専攻し、将来の進路は、高校で書道を教えようと決めました。

牛窪さんは、篆書は、まず文字のでき方を学ぶのが楽しい。そして古い文字なので、現在の活字体とはちがう、象形文字としてのおもしろさがある。さらに書き方も、自分自身の発想で自由にくふうできることが魅力なんです。と、篆書の魅力を語りま



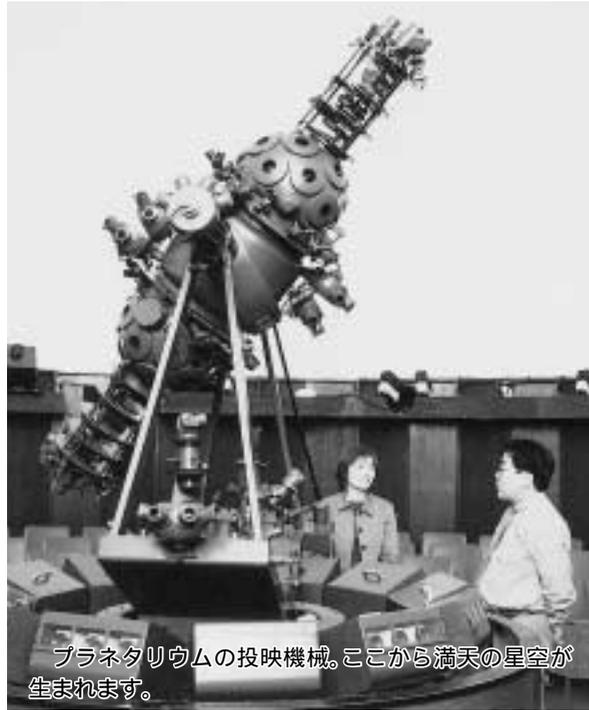
書道界の第一線で活躍する県内の書道家30人が、流派を超えて一堂に介する「埼玉書道三十人展」にて。（今年3月に開催）

い、きつかけは、

「先生は書道界で初めて文化勲章を受賞したかたで、理論や実技面で大変影響を受けています。そして、漢字の成り立ちを考えて書くという面では、漢字学の権威である日川 勝先生に影響を受けました。お二人の素晴らしい教えが調和したところから、私を引きつける『書』の魅力があるのです。」とおっしゃいます。

牛窪さんは、篆書は、まず文字のでき方を学ぶのが楽しい。そして古い文字なので、現在の活字体とはちがう、象形文字としてのおもしろさがある。さらに書き方も、自分自身の発想で自由にくふうできることが魅力なんです。と、篆書の魅力を語りま

無限に広がる宇宙の中の自分が 今ここに生きていることを 感じてみませんか



プラネタリウムの投映機械。ここから満天の星空が生まれます。

また、児童館ではこのプラネタリウムでオリジナルの動画を投映しています。これは、広報紙や市のホームページのさやまの絵本でおなじみの

説明することです。今では全国的にもあまりない取り組みで、来場者の年齢層や反応を見て、時にはアドリブなども入れながら解説ができるという特長があります。特に一方的なプラネタリウムだとあきってしまうような小さな子にも興味を持ってもらえるので好評なのだそうです。児童館のプラネタリウムの役割は、子どもたちに星の知識を覚えさせるより、『無限に広がる宇宙の中の自分が、今ここに生きている』ことを感じてもらうことだと思っています。」と大沢副館長。私も実際に解説を聞きながら見せていただいて、周りを星に囲まれてとても不思議な気持ちになりました。また温かみを感じて心が休まりました。投映は、学習投映という学校のクラスを対象にしたものが中心ですが、第2・4土曜日と毎週日曜日に「はだれでも見ることのできる一般投映も行っていますので、ぜひ皆さんにも見ていただきたいと思います。ただし、小学生以上は費用が100円かかりますので、子どもだけで行かせるときには忘れずにお金を持たせてあげてください。20人以上の団体で申し込めば、費用も無料になります。児童館のバスで送迎してくれるので、子供会や自治会の事業にオススメです。」

今回お話を伺って、私たちの身近にこんな素敵な施設があるのを再発見しました。皆さんもぜひこのロマンチックな星雲を訪ねてみてはいかがでしょうか。

問い合わせ中央児童館へ ☎9530208

REPORTER'S EYE

中央児童館プラネタリウム



【リポーター】

玉置史代さん(鶯ノ木在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、読者がレポートします。

見上げれば満天の星。そんな夜空に憧れるのは私だけではないと思います。それを身近に体験できるのがプラネタリウムです。ところで、皆さんは狭山市にもプラネタリウムがあるのをご存じですか。場所は中央児童館 児童館といつと子どもたちのための施設と思いがちですが、このプラネタリウムは大人も利用できます。今回は、中央児童館のプラネタリウムを大沢副館長の案内で紹介いたします。

中央児童館のプラネタリウムは、県内では川口市に続いて2番めに設置されました。現在は県内の19の市町村が設置していますが、その中で狭山市だけがやっていることがありません。それは星や星座を解説するとき、録音した解説をただ流すのではなく、職員が投映内容を見ながら

「だいだらぼっちの七夕まつり」を上映するそうなので、今から楽しみです。そのほか今後は「パオネット」という国立天文台を中心としたネットワークを活用して、地球の裏側で起こっている日食などの一般には公開していない天文現象を、児童館でリアルタイムで見ることができるようになるそうです。



「だいだらぼっちの七夕まつり」の一場面。ほのぼのとした雰囲気伝わってきます。